

AGRICULTURE HYOGO ORGANIC FARMING
SUSTAINABLE FOR

ひょうご 有機農業法人

ガイドブック



兵庫県

有機農業(オーガニック)とは

有機農業とは、土が本来持つ力を生かし、そこで生きる生き物と共生しつつ、自然との調和を大切にしながら行う環境にやさしい農法のことです。「有機農業の推進に関する法律(2006年策定)」では、次のように定義されています。

- ① 化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない
- ② 遺伝子組換え技術を利用しない
- ③ 農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する



有機JASとは

「有機JAS」とは、JAS法(日本農林規格)によって定められた有機農産物の表示をするための有機認証制度です。2年以上化学肥料や化学合成農薬を使用していないほ場で、有機農業の定義に基づいた生産が行われていることを第三者機関が検査し、認証します。認証された事業者は、「有機JASマーク」を使用し、農産物に「有機〇〇」等と表示することができます。



※兵庫県内には「NPO法人兵庫県有機農業研究会HOAS」と「(一社)オーガニック認証センター」の2つの認証機関があります。

国は有機農業の取組拡大を推進しています

農林水産省では2021年、環境に配慮しながら食料・農林水産業の生産力を上げ、持続可能性を高めるために「みどりの食料システム戦略」を策定。有機農業が生物多様性の保全や地球温暖化防止に寄与することから、オーガニック市場の拡大を推進しています。

〈推進および普及の目標〉

- 有機農業の取組面積 23.5千ha(2017年)→**63千ha**(2030年)
※さらに、2050年までに取組面積を100万haに拡大
- 有機農業者数 11.8千人(2009年)→**36千人**(2030年)
- 有機食品の国産シェア 60%(2017年)→**84%**(2030年)
- 有機食品を週1回以上利用する者の割合 17.5%(2017年)→**25%**(2030年)

兵庫県における有機農業の取組



いち早く、環境創造型農業を推進しています

兵庫県では1993年に県独自の有機農業認証制度を創設し、環境創造型農業を推進しています。2001年に有機JAS認証制度が始まる前からの取組とともに、2008年には兵庫県環境創造型農業推進計画の策定により推

進し、着実に拡大してきました。その結果、耕地面積に占める有機農業の割合は1.4%(2020年度)と全国より高く、2030年に向けて「有機農業の拡大」「担い手の育成」「流通・消費の出口対策」の強化を進めています。

兵庫県内取組面積の推移	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
有機農業取組面積 (兵庫県農業改良課調べ)	1,031ha	1,060ha	1,081ha	1,161ha
うち有機JAS取得面積 (2024年6月農林水産省公表値)	222ha	233ha	272ha	-

国と兵庫県の有機農業の推進目標

		2020年	2030年	2050年
国	有機農業面積	2.52万ha	6.3万ha	100万ha
	耕地面積に占める有機農業割合	0.6%	1.5%	25%
兵庫県	有機農業面積	1,031ha	1,850ha	-
	耕地面積に占める有機農業割合	1.4%	2.7%	-

国/みどりの食料システム戦略の目標設定
県/ひょうご農林水産ビジョン2030の目標

9市町が「オーガニックビレッジ」を推進

「みどりの食料システム戦略」では、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地づくり(オーガニックビレッジ)を推進しています。兵庫県内では、2022年度から全国最多となる9市町が「オーガニックビレッジ」を推進し、農業者・事業者・住民を巻き込み、農作物の生産から消費まで一貫した地域ぐるみの有機農業の産地づくりを積極的に進めています。

【兵庫県内のオーガニックビレッジ取組市町】

- 2022年度開始 豊岡市、養父市、丹波篠山市、丹波市、淡路市
- 2023年度開始 神戸市、加東市、上郡町、朝来市



(出典/農林水産省「有機農業産地づくり推進事業」)

TOPIC

有機農業アカデミー開講!
兵庫県立農業大学校に「有機農業課程」を新設

有機農業の取組を拡大するため、「経営として成り立つ有機農業」を実践する担い手の育成を目指し、有機農業を体系的に学びます。

- 開講時期: 2026年4月予定
- 教育期間: 1年間
- 定員: 10名

ひょうご有機農業法人ガイドブック

農業法人は企業として、農業を営んでいます。

企業の多彩な経営戦略の中でも、

有機農業に独自のやり方で取り組み、

持続可能な経営を推進している農業法人があります。

なぜ有機農業だったのか、どんな有機農業をしているのか、

取り組んだ思い、絶えない苦勞、

でも頑張りたいと思わせる魅力は何か、

皆さんそれぞれの有機農業についてお伺いしています。

CONTENTS

- 有限会社 ヘルシーファーム (神戸市西区) 3
- 株式会社 元源 (加西市) 4
- イオンアグリ創造株式会社 兵庫三木里脇農場 (三木市) 5
- 株式会社 坪口農事未来研究所 (豊岡市) 6
- 有限会社 あした (豊岡市) 7
- 農事組合法人 アイガモの谷口 (新温泉町) 8
- 農事組合法人 ファームくだわ (朝来市) 9
- 八鹿酒造有限会社 (養父市) 10
- 有限会社 アグリハイランド金谷 (養父市) 11
- 株式会社 丹波婦木農場 (丹波市) 12
- 株式会社 山茂 (丹波市) 13
- ひょうたん農場株式会社 (丹波市) 14



独自の栽培方式と 働き方を取り入れ 少量多品目で安定出荷



ヘルシーファームの取組

約40年前から自然の力を生かした無農薬・無化学肥料の栽培に着眼、有機農業の先駆者として歩んできた西馬正さんの「自然生態系有機農法」を継承する「ヘルシーファーム」。多品目野菜の輪作体系を確立し、独自に開発した有機質肥料を使った「神出有機栽培グループ有機農作物」として出荷しています。

すべての野菜を有機JAS認証を受けた畑で栽培。「旬の野菜を安定供給すること」を目標に、同じ品目の野菜でも場所を分けて栽培することで病害虫などのリスクを軽減しています。肥料は米ぬかなどの植物質と、魚粕や骨粉、血粉などの動物質をバランスよく配合した自社有機質肥料を使用。ミネラル豊富な健康野菜の生産を目指しています。



新鮮な状態でJA直売所やスーパーに出荷

夏は果菜類、冬は葉菜類・根菜類を主体に年間を通じて出荷。正さんの妻、西馬まきむ子さんが地域の有機栽培生産者と一緒に立ち上げたグループ「ヘルシー・ママ・SUN」では、季節ごとの野菜の栽培・収穫体験やみそづくり講習会などを毎年開催。土に触れる交流を通じて有機野菜のファンづくりや子どもたちの食育活動を30年以上続けています。



自社生産の有機質肥料「ただし」

経営内容・品目

- 経営面積 / 240a、うち有機170a(すべて有機JAS認証)
- 栽培品目 / 約100品目の葉菜類・根菜・果菜類170a(露地120a、施設50a)、水稻(減農薬コシヒカリ)70a

【法人概要】
 ● 所在地 / 神戸市西区神出町紫合278-1
 ● 設立 / 1982年
 ● 従業員数 / 正社員4人、パート3人
 ● TEL / 078-965-2456
 (有機農業体験施設グランメール)
 <受け入れについて>
 研修は1年間を基本に受け入れています。詳細は問い合わせを。

代表メッセージ

ヘルシーファーム 代表取締役 入谷周太郎さん



お客様に喜ばれる旬の野菜を安定供給することにこだわっています。有機栽培は雑草や病害虫対策などの苦労が多く、ひとつの畑で単一品目を栽培していると、害虫の発生で全滅するなどのリスクがあります。私たちは同じ畑で複数の野菜を一緒に育て、農薬を使わず微生物や益虫の力を引き出す自然の生態系に近づけた栽培を行っています。また、従業員は農場内に点在する農地単位ごとに個々が責任を持って生産を担当。一人ひとりが農地「オーナー」になって

自分なりの農業経営のやり方を勉強しています。収穫量が増えたらもらえるボーナス制度もありますよ。
有機農業に関心を持った30代の頃、親方の西馬正さんに出会い、がむしゃらに研修に励んだのが私の農業人生のスタートでした。ヘルシーファームでは安定出荷で売上を平準化させ、従業員には固定給を支給しています。研修期間は1年間。真剣に農業を学んで、がんばり続けられる人を歓迎します。

働く先輩のインタビュー



古川桂三さん(2005年入社)

篠崎知美さん(パート)

田舎暮らしがしたくて、神戸市の新規就農研修を通じて会社員からヘルシーファームに転職しました。良い土を維持しながら作物の安定供給を心がけています。先代社長の遺志を継いで、農場の将来を担う若手にバトンを繋いでいきたいと考えています。

畑作業や袋詰め、配達のパートタイムで働いています。自由な勤務時間の中でも責任ある仕事を任されているのでやりがいがあります。子どもに好き嫌いなく安全な野菜を食べさせたい思いがあり、いずれは社員として働きたいと思っています。

独自の冷凍技術で
作物を高付加価値化
産地ブランドを全国へ発信



元源の取組

播磨の在来品種のサトイモに着目し、2009年から自家採種を開始。完熟堆肥で土づくり、栽培期間中は、化学肥料・農薬を使用せず、“粘りが強く、絹のようにきめ細やかな食感”の「絹里芋」を生産しています。有機栽培で発生する規格外品の有効活用と皮むきの手間を省くことができると、岐阜大学との産学連携共同研究に取り組み、兵庫県初のカット芋の凍結加工技術を確認。「冷凍絹里芋」は、生芋と変わらない味と冷凍ならではの利便性を武器に、学校給食やふるさと納税返礼品、大手通販サイトなど、年間販売商品として販路を拡大しています。



冷凍絹里芋

2022年からは兵庫県が育成した新しい黒大豆枝豆「ひかり姫」の栽培を開始。冷凍サトイモの技術を生かし、蒸し焼きして急速冷凍することで、枝豆の味を左右する鮮度維持に成功。首都圏の高級スーパーへの出荷を実現しました。2023年には、「ひかり姫」を栽培する万願寺地区の若手農業者とともに「農のクリエイティブ万願寺」グループを結成。「ひかり姫」を“枝豆界のニューヒロイン”と銘打ち、率先してPR。収穫祭などを通じて交流人口を拡大し、地域活性化に貢献しています。

有機JAS認証を取得している山田錦は、地元の企画販売会社、酒蔵とともに進めている「一圃一酒（いちぼいっしゅ）」プロジェクトに使用。元源の山田錦のみを使った純米酒は、原料から醸造まですべてを地元で完結し、加西のテロワールとして魅力を発信しています。



【法人概要】

- 所在地／加西市上万願寺町1155（加工場は同631-2）
 - 設立／2020年8月 ●従業員数／研修生1人、パート7人
 - TEL／090-8754-6424
 - Instagram／<https://www.instagram.com/gengen.831/>
- <受け入れについて>
就農を前提に研修生（1～3年間）を受け入れています。詳細は問い合わせを。

代表メッセージ

元源 代表取締役 藤本圭一朗さん



寒暖差が大きく、源流域の水の良さや粘土質の土壌に可能性を感じて万願寺地区に移住、就農しました。当社では、お客様のニーズに応える「マーケットイン」の発想で、農産物の高付加価値化に取り組んでいます。有機栽培には流通や販売面で訴求効果がありますが、気候変動による害虫の大量発生などのリスクも考えて、減農薬栽培なども取り入れた柔軟な農業経営を心がけています。

法人化と同時に設置した自社冷凍加工場の技術を生かし、「農のクリエイティブ万願寺」やこの地域の生産者が一体となって、「絹里芋」や「ひかり姫」を産地ブランドとして全国、海外へと発信していきたいと考えています。就農にあたって、素直で向上心のある人、研修後にこの地で就農を目指す人を歓迎します。

働く先輩のインタビュー



西谷 匠さん
（2023年11月から研修中）

自然の中で自分のペースで仕事ができることに魅力を感じ、研修生として働いています。有機栽培では、除草をはじめ猛暑や害虫対策などにも悩まされますが、「持続可能な暮らしの豊かさを実現させること」をモットーに日々精進しています。

研修を終えた後は、この地で独立することを目指しています。就農を考えている人は、研修などを通じて数多くの農家と出会って、自分なりの学びを積み重ねることが大事だと思います。

経営内容・品目

- 経営面積／9.4ha、うち有機1.6ha（山田錦30a（有機JAS認証）、サトイモ1.3ha）
- 栽培品目／水稻（山田錦、コシヒカリ、きぬむすめ）、サトイモ（絹里芋）、黒大豆枝豆（ひかり姫）
- 加工品／冷凍「絹里芋」、冷凍「黒枝豆（ひかり姫）」

生産から販売に至る
グループ流通基盤を活用
環境保全と脱炭素化を掲げ
有機農業の拡大を推進



イオンアグリ創造兵庫三木里脇農場の取組

「農業の発展とお客さまの価値を創造する」を理念に掲げ、職業として農業を志す若手を積極的に雇用している「イオンアグリ創造」。現在、全国の直営農場21カ所約400haで約100品目の農産物を生産。全国約600人の従業員が直接生産に関わり品質管理を行うことで、安全・安心・新鮮な農産物をイオングループに安定供給する役割を担っています。

すべての品目で世界標準の農業生産工程管理(GLOBALG.A.P.)の手法を取り入れ、各農場での生産活動の工程で得られたデータやノウハウを共有。品質管理に役立っているほか、兵庫三木里脇農場ではキャベツやブロッコリー、レタスなどを有機JAS認証を受けた畑で栽培。同認証を受けた地域のパートナー農場とともに「トッパバリュ グリーンアイ」ブランドとしてイオングループ各店に出荷しています。



有機JAS認証マークを付けて出荷される「トッパバリュ グリーンアイ」



隣接するコンポストファクトリー

兵庫三木里脇農場には、連携企業の大栄環境(株)運営のコンポストファクトリーが隣接。グループ各店舗から出る食品残さを回収し、有機堆肥に生まれ変わらせて畑に施用することでイオングループ内で完結する「食品リサイクルグループ」を構築。環境に配慮した資源循環型の取組を進めています。

代表メッセージ

兵庫三木里脇農場 農場長 山崎宏則さん



イオンアグリ創造は、2028年までに全国の直営農場を有機農業に転換する目標を掲げています(※)。兵庫三木里脇農場では、既に葉物野菜を中心に有機栽培に取り組んでいますが、今後も有機栽培の割合を高めていく予定です。約100品目を栽培する全国の直営農場で蓄積された技術を生かし、社内はもちろん地域で有機農業に取り組むパートナー生産者とともに推進していきます。

※原則有機JAS認証が認められていない養液栽培のみを行っている埼玉久喜農場は除きます。

当社従業員の平均年齢は36.2歳。全国の仲間が地道に、まじめに持続可能な農業に取り組んでいます。私自身、「これからの日本の農業を変えてみたい」との思いで入社しました。畑から店舗まで一貫して責任を持つイオングループだからこそできる、農業の新たな価値の創造にチャレンジしてみませんか。正社員(新卒・社会人採用)、コミュニティ社員(有期雇用・時間給制)、農場インターンシップの採用情報をホームページに掲載しています。

働く先輩のインタビュー



田嶋秀宇さん(2021年入社)

農業を自らの手でやってみたいと、自治体の中央卸売市場から転職しました。現在、青ネギの播種・定植から収穫まで約3.5haの規模で栽培を任されています。年間を通じて出荷があるので、冬場はハウス栽培も取り入れて安定出荷を目指しています。自分の中で反省点を抽出して、社内でもアドバイスをもらいながら改善。「PDCA」を繰り返しながら出荷目標を達成し、自分も成長できるところに魅力を感じています。



【法人概要】

- 所在地/三木市口吉川町里脇780
- 設立(本社)/2009年7月 ※兵庫三木里脇農場は2013年2月開場
- 従業員数(兵庫三木里脇農場)/正社員6人、コミュニティ社員34人
- TEL/043-212-6714
(イオンアグリ創造株式会社 人事部)
- HP/<https://aeonagricreate.jp/>
<受け入れについて>
採用情報は同社HP(右記QR)を参照。



経営内容・品目

- 経営面積/
12ha(栽培面積7ha)、うち有機1ha(露地0.7ha、施設0.3ha、すべて有機JAS認証)
- 栽培品目/
キャベツ、ブロッコリー、レタス、ほうれんそう、こまつな、青ネギ、ミズナ、パクチー、ブドウなど約30品目

「コウノトリ育む農法」に
先進技術を積極導入
農業の未来の姿を追求



坪口農事未来研究所の取組

「未来の農業と環境を創造する」を理念に掲げ、「コウノトリ育む農法」による米作りを主体に環境創造型農業に取り組む「坪口農事未来研究所」。持続可能な安定した農業経営を目指し、多様な収益を確保できる事業にもあわせて取り組んでいます。

水稲栽培面積の3分の1となる約11haで6品種を「コウノトリ育む農法」で栽培。中でも、有機JAS認証を受けたほ場で育てた「コシヒカリ」や「いのちの杏」、「みどり豊」、「黒米」などは、高付加価値米の自社ブランド「非時(ときじく)の米」として販売しています。野菜類はほぼすべてを有機栽培。通年で花き類の生産、販売も行うほか、食用米を使った日本酒や甘酒の開発、ジュース製造などの6次産業化も積極的に推進しています。

法人化した2019年には、環境問題に取り組むアウトドアメーカーと提携し、ソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)事業をスタート。ほ場内に設置した5機のソーラーパネルからの売電により、安定収入につながっています。



自社ブランドの加工品

代表メッセージ

坪口農事未来研究所 代表取締役 平峰英子さん



「坪口農事未来研究所」という名が示すように、当社では未来の農業の姿を追い求め、環境に配慮した農業に取り組んでいます。

水稲事業においては、「コウノトリ育む農法」の栽培を拡大し、経営のバランスを考えながらですが、有機JAS認証面積も年々増やしてきました。未来の農業を考える上で必要な「農業におけるCO₂削減」の実証研究にも取り組んでいます。

思い切った投資を行ったソーラー

シェアリング事業では、売電収入以外にも提携企業のネットワークを通じて自社商品の販路や加工品開発の拡大につながっています。

食の生産者として安心・安全を最優先に「未来のために私たちができること」を一つ一つ実践していきたいと考えています。農業の未来を担う志を持ち、複合的な事業展開にチャレンジする意欲のある人を歓迎します。

働く先輩のインタビュー



黒葛(つづら)真吾さん
(2020年入社)

「コウノトリ育む農法」に取り組んでみたいと思い、「豊岡農業スクール」の研修を経て入社しました。水稲に加え有機野菜や花き類の栽培も担当し、栽培計画の作成から出荷まで責任をもって取り組んでいます。但馬地域では有機野菜の若手生産者のつながりが深く、一丸となって広めようという雰囲気があるのも心強いです。独立を視野に入れていますが、これからも有機農産物をできるだけつくっていききたいと思っています。



ソーラーパネルの下でもしっかり栽培

勤や経験に頼る農業からの脱却を目指し、スマート農業にも注力。営農支援システムやドローン、大型機械の自動操舵システム、米の乾燥調製を一元管理できるシステムなど、先進技術をいち早く導入し、少数精鋭のチームで生産性を向上させています。



【法人概要】

- 所在地 / 豊岡市三宅318-1
 - 設立 / 2019年4月
 - 従業員数 / 正社員1人 パート・アルバイト5人
 - TEL / 0796-26-0190
 - HP / <https://tsuboguchi-agri.com/>
- <受け入れについて>
書類選考と面接により、社員募集を行っています。条件等詳細は問い合わせを。

経営内容・品目

- 経営面積 / 35ha、うち有機4.6ha(水稲、野菜、すべて有機JAS認証)
- 栽培品目 / 水稲34ha(コシヒカリ、みどり豊、いのちの杏、ほむすめ舞、黒米、赤米) 野菜1ha(ニンジン、カボチャ、サツマイモなど)、黒大豆 花き(トルコギキョウ、菊など)、果樹(ブルーベリー)

地域に根ざし、愛されて20年 但東町の“あした”に向かって 農業後継者を育成



あしたの取組

豊岡市南東部に位置する但東町では、良質の水や寒暖差が大きい中山間地域の特長を生かし、水稲のほか、ピーマンやシルクコーンなどの特産野菜、養鶏や繁殖牛の畜産など、さまざまな形態の農業が行われています。農業者の高齢化が進む中、「有限会社あした」は、地域農家と行政の共同出資により、農作業の受託や農地を預かる法人として設立。但東地域の将来を担う農業後継者を育成すべく、若者を積極的に社員や研修生として受け入れています。社員の半数以上が30～40歳代の同社では、若手メンバーの活躍で、自社経営の水稲26haに加え町内24haの稲作作業も受託。2023年には社屋を同町資母(しぼ)地区に集約し、作業効率が格段に向上しました。



水稲の収穫

有機JAS認証を受けたニンジンには、代表取締役就任した山田将吾さんが担当。牛ふん堆肥と緑肥による土づくりにこだわり、但馬で有機農業に取り組む7人の若手農業者団体「豊岡オーガニックワークス」の一員として学校給食などに販路を拡大しています。また、減農薬・減化学肥料の特別栽培による「たじまピーマン」は、同社を含む34



ニンジンの収穫

農家が参加するJAたじま但東町野菜生産組合ピーマン部会が但馬地域全体出荷量の約半分を生産。接木苗の管理技術や自動かん水装置などの取組が奏功し、同部会の販売金額は1億円を超える特産品に発展しています。



【法人概要】

- 所在地/豊岡市但東町中山790-1
 - 設立/2004年2月 ●従業員数/正社員7人、パート4人
 - TEL/0796-20-8319
 - HP/http://www.ashita2004.co.jp/
- <受け入れについて>
「豊岡農業スクール」(4月開校)の研修生を受け入れています。同スクールの詳細は右記QRを参照。

代表メッセージ

あした
顧問 霜倉和典さん

「あした」は、地域の農地を守り、新規就農者の雇用の受け皿として、長期間にわたり農業に取り組む環境を整えるために設立した法人です。但東町は小さなまちですが、温かい人と人とのつながりが自慢です。2023年には、民間・行政・地域住民が集まって「たんとう未来会議」が発足しました。子育て支援や空き家の活用など、まちを挙げて人口減少対策に取り組んでいます。農業でしっかり稼いで、「住めば都の但東」で暮らしてみませんか。



代表取締役
山田将吾さん

2022年からニンジンの有機栽培を始め、素材のありのままのおいしさを追求しています。太陽熱土壌消毒や連作障害対策など、苦労は絶えませんが、給食で食べてくれる子どもたちの笑顔に励みたいとがんばっています。今後はジャガイモなどにも取り組んでみたいと考えています。「経験を重ねることが一番」と、任せてくれる霜倉さんのもと、栽培はもちろん、機械操作や生産管理、販売戦略など、農業経営のノウハウを学ぶことができました。就業環境が整った法人で安心して働けることがメリットだと感じています。



働く先輩のインタビュー



三歩大輝さん
(2009年入社)

高校時代のアルバイトが縁で、当社で2年間の研修を受けて社員になりました。ピーマンは実の大きさと色で判断しながら何回も収穫するので大変ですが、「たじまピーマン」で地域を盛り上げていきたいと思っています。農作業に精を出していると、地域の人が気軽に声をかけて応援してくれるのでやりがいを感じています。

経営内容・品目

- 経営面積/
28.8ha、うち有機80a(ニンジン、すべて有機JAS認証)
- 栽培品目/
水稲26ha(コシヒカリ、ミルキークイーン、つきあかり、滋賀羽二重糯)、ピーマン40a、シルクコーン160a、ニンジン80a、山うど(施設)、チューリップ球根栽培(冬期)



アイガモ農法のその先へ
農業と畜産、加工が連携し
事業領域を拡大中



アイガモの谷口の取組

1992年から30年以上にわたり、アイガモを使った「自然循環農法」に取り組む「アイガモの谷口」。アイガモは自社の飼育場で年間約1万羽を飼育。約2000羽をアイガモ農法に使うほか、食肉用に「但馬鴨」として肥育しています。アイガモ農法では、アイガモが雑草や害虫を食べてフンが肥料となり、泳ぐことで土や水をかき回すので水田に酸素を供給し、稲の成長を促進するなどの効果があります。その一方で、アイガモのさまざまな天敵対策では多くの労力とコストが求められます。こうした努力を惜しまず、無農薬、無化学肥料で育てた「たにぐちのアイガモ米」は、味の良さと生態系を重視する姿勢に共感する、多くの消費者と深いつながりを築いています。



水田のアイガモ



人気の鴨鍋セット

地域の農家とともに生産する飼料用米は、平飼いで育てるアイガモに給餌。臭みが少なく透き通る上質な脂が特徴の「但馬鴨」は通信販売の人気商品となり、全国各地の飲食店からの注文も増えています。

2023年、同社の取組が、兵庫県が主導する「ひょうごフィールドバビリオン」のSDGs体験型プログラムに認定されました。これを機にほ場に足を運んでもらう機会を増やし、自然の中で心身ともに癒される「あいがもパーク」のような施設運営を目指しています。

代表メッセージ

アイガモの谷口 代表理事 谷口正友さん



当社では、アイガモ農法によって自然の摂理に沿った循環型農業を実践し、食を通して健康と幸せを創出する経営に取り組んでいます。2020年には自社食肉加工場が稼働。アイガモのふ化から鴨肉までの一貫生産が可能になり、飼料用米などを餌に活用することで鴨肉を増産。コメと並ぶ当社の大きな柱に成長しています。農業には無限の可能性があります。社会でSDGsの意識が高まる中、“捨てるものない農業”を目指す当社の

取組をより多くのお客様に知ってもらうために、今後は生産性を高めながら、新規事業や新商品の開発にも取り組んでいく予定です。また、ワークライフバランスは重要と考え、就業規則を定めて休日をしっかりと取ってもらうなど、従業員の雇用環境の整備にも力を入れています。農作物の栽培だけでなく、農業を軸に自分のやりたいこと、目指したいことをしっかり持った人材を受け入れていきたいと考えています。

働く先輩のインタビュー



寺嶋大河さん(2023年入社)

高校時代に動物飼育と作物栽培を同時に行うアイガモ農法を授業で学び、興味を持ちました。動物が好きなので、コメとアイガモ、2つの命を循環させて環境を守りながら、地域の人やお客様に喜ばれるこの仕事に誇りをもって取り組んでいます。社内には料理が得意、機械が好きなど、個性的なメンバーがたくさんいます。当社の循環型農業に魅力を感じてもらえたら、ぜひ仲間になってほしいと思います。

【法人概要】

- 所在地/美方郡新温泉町対田409
- 設立/2002年3月
- 従業員数/正社員12人、パート13人
- TEL/0796-82-4660
- HP/<https://www.organic-farm.co.jp/>

<受け入れについて>

面談を兼ねた農場見学の申し込みが可能。詳細は問い合わせを。

経営内容・品目

- 経営面積/
18ha、うち有機11.6ha(水稲、大豆)
- 栽培品目/水稲11ha(コシヒカリ、マンゲツモチ)、
飼料用稲7ha、大豆60a
- 加工品/
鴨肉・鴨肉加工品、米・玄米加工品、もち、味噌など



法人化により農地を集約
規模のメリットを生かして
有機栽培米を増産



ファームくだわの取組

「ファームくだわ」は、1989年に立ち上げた久田和営農組合が前身となり、和田山町の久田和を含む東河地区全体の集落営農組織を集約して農地面積を拡大。2012年に朝来市初の農事組合法人として設立しました。久田和営農組合時代の2009年度から水稲と黒大豆において減農薬・無化学肥料栽培に取り組み、「コウノトリ育む農法」による環境保全型農業は経営面積全体の約3割に達しています。2024年に朝来市が発表したオーガニックビレッジ宣言では、有機農業の面積を拡大し、学校給食の米すべてを「コウノトリが育む無農薬米」に切り替えていくことを表明。ファームくだわにおいても、現在約6.3haの有機栽培米の取り扱い面積を増やしていく予定です。

また、近年の輸入畜産飼料の高騰を受けて飼料用稲の栽培にも力を入れています。稲全体を刈り取ってロール状に成型した稲WCS(稲発酵粗飼料)を約13haの規模で生産。地域の畜産農家へ供給し、畜産農家から提供された牛ふんを粗穀と混ぜて発酵させた堆肥をほ場に利用しています。

農事組合法人を構成する組合員農家の高齢化が進む中、大型機械の導入や空き家を寮として活用するなど、若手が活躍できる環境を整えて新規就農者の受け入れを積極的に行っています。



稲WCS調整の様子

代表メッセージ

ファームくだわ 代表理事 清田正巳さん

有機農業は手間がかかりますが、そこに取り組むことで付加価値を高め、収益を上げることを目指しています。朝来市の農業を持続可能なものにするためにも、コシヒカリの有機栽培を広げていく予定です。地域の高齢化が進み、当法人の経営面積は今後50ha程度まで広がっていく見込みです。それに伴い大型トラクターなど農業機械の操作に必要な免許や資

格も積極的に取得してもらっています。私たちは、コウノトリが久田和にある巣塔で雛をかえしたように、農業を担う次世代の人材を育てていきたいと考えています。来年度は和田山町に移住する20代の新規就農者を受け入れます。自然環境の保全に努めながら、大規模な農地で本格的に米作りに挑戦したい人を歓迎します。



働く先輩のインタビュー



ファームくだわ 副理事
稲津大佑さん(2016年入社)

豊岡で靴職人として働いていましたが、30代になって家族が増えたことを機に、一緒に過ごす時間を充実させたいと思い、ふるさとの久田和で就農することを決めました。農事組合法人として、多くの組合員農家のほ場を守り、作物を育てていく責任とやりがいを感じています。機械好きなので、大型農機具やドローンなどの新技術にも楽しみながら率先して取り組んでいます。



【法人概要】

- 所在地 / 朝来市和田山町久田和658-2
 - 設立 / 2012年7月
 - 従業員数 / 正社員2人 パート3人
 - TEL / 079-670-2817
 - Mail / farmkudawa@gmail.com
- <受け入れについて>
2週間程度のインターンシップ研修が可能です。詳細は問い合わせを。

経営内容・品目

- 経営面積 / 42ha、うち有機6.3ha(水稲)
- 栽培品目 / 水稲27ha(コシヒカリ、あきだわら、マンゲツモチ)、飼料用稲13ha、黒大豆・黒枝豆30a、岩津ネギ36a



八鹿酒造の取組

養父市北部の中山間地にある「八鹿酒造」では、自然の力や土の力を生かし、農薬や肥料(化学・有機質ともに)を使わない自然栽培で育てた山田錦やもち米などを使い、純米酒や本みりんなどの製造、販売を行っています。

学生時代にこの栽培方法に出会い、感銘を受けた水垣篤さんは、30代で先代から酒蔵を引き継ぐとともに就農。山田錦の自然栽培に取り組む三木市の契約農家の指導を仰ぎながら、1998年から自社のほ場で山田錦の栽培を始めました。自家採種を繰り返して種をその土地に順応させ、清浄に保った土に本来備えた力を発揮させることで、山田錦をはじめ、本みりんの原料となるもち米や飯米用のコシヒカリなども栽培。わずか2aから始まった水稻の栽培面積は2.2haの規模にまで拡大しています。

2003年からほ場の有機JAS認証を取得。しっかりとした加工品の実需がある強みを生かし、原料から無農薬、無肥料で一切の添加物を含まない魅力を打ち出した「夫婦杉(めおとすぎ)自然米酒」(純米酒)は、養父市地域ブランド推奨品に認定され、地域の特産品となっています。収穫した酒米は姫路市の酒蔵に醸造を委託し、自社では貯蔵、ろ過、瓶詰めを行っています。今後は休止していた自社の醸造部門を復活させ、原料から商品化まで一貫して製造することを目指しています。



酒蔵でも販売

代表メッセージ

八鹿酒造 代表取締役 水垣篤さん

自然栽培では雑草対策や除草に多くの手間がかかるため、さまざまな種類の除草機で試行錯誤を重ねています。また、イネカメムシなどの害虫の予期せぬ発生もあります。その一方で、自然栽培を続けていると種と土の力が高まり、作物は手をかけた分、しっかりと実りで応えてくれます。

耕作面積を現在の2.3haから4ha程度に拡大する予定もあり、目下の目標は自社で醸造もできる体制を整

えることです。2022年から有機米加工酒類にも有機JASマークの表示ができるようになったことから、原料から製品まで一貫製造することで価値を高め、輸出も視野に入れています。

コロナ禍を経て、消費者の目が有機農業や有機食品により向けられてきたと実感しています。有機農業の中でも、自然栽培に興味がある人を歓迎します。



働く先輩のインタビュー



井上孝行さん(2020年入社)

但馬に30代後半にUターンして就農することを決めました。環境問題に関心があり、自然農法を実践する水垣社長を紹介されたことが縁で入社しました。当社で山田錦などの自然栽培を実戦形式で学びながら、60aほどの自分の農地で野菜やコシヒカリを栽培しています。無農薬、無肥料であっても作物はしっかり育つことを肌で感じています。



【法人概要】

- 所在地 / 養父市八鹿町九鹿461-1
 - 設立 / 1956年2月
 - 従業員数 / 正社員2人、パート2人
 - TEL / 079-662-2032 ● FAX / 079-663-1405
 - Mail / xaijian@feel.ocn.ne.jp ● HP / https://yokashuzo.com/
- <受け入れについて>
研修やインターンシップを通じて受け入れを行っています。詳細は問い合わせを。

経営内容・品目

- 経営面積 / すべて有機JAS認証で2.3ha
- 栽培品目 / 水稻2.2ha(山田錦、コシヒカリ、滋賀羽二重糯)、大豆8.4a
- 加工品 / 純米酒 (委託加工) 本みりん、米焼酎、黒糖梅酒

契約出荷で経営基盤を確立
高原の気候を生かして
有機栽培を長年継続



アグリハイランド金谷の取組

兵庫県営農地開発事業として造成され、標高 500~700mの高原に約300棟のビニールハウスが並ぶおおや高原。「アグリハイランド金谷」は、現在8農家で構成されるJAたじまおおや高原有機野菜部会の一員として高原野菜の生産に取り組んでいます。有機JAS



高原の冷涼な気候で育つ野菜

認証を取得した歴史は古く、2007年の認証取得から長年にわたり有機栽培にこだわり、夏場の冷涼な気候を生かして、ホウレンソウなどの葉菜類やミニトマトを38棟のビニールハウスで栽培しています。但馬牛の牛ふんや糞がらなどで作られた堆肥「おおや有機」や有機質肥料を活用し、健康な土づくりと地域の有効資源活用を努めています。冬期の積雪により、おおや高原での営農期間が3月下旬~12月中旬になるため、同社では朝来市にもほ場を確保、平地での露地野菜の栽培も行っています。



コープこうべフードプラン「おおや高原有機野菜」

大きな強みは、生活協同組合コープこうべが提唱する「コープこうべフードプラン」の生産委託農家として、1990年から契約出荷を行っていることです。現在では、おおや高原の農家とともにJAたじまおおや高原有機野菜部会として受託を続けています。同部会全体では約230棟のビニールハウスで年間約70トンの有機野菜を生産。JAたじまを通じてコープこうべに出荷するほか、最も労力を必要とする収穫・出荷の作業軽減を目的にホウレンソウ収穫機の導入試験などに取り組み、生産拡大を目指しています。

大きな強みは、生活協同組合コープこうべが提唱する「コープこうべフードプラン」の生産委託農家として、1990年から契約出荷を行っていることです。現在では、おおや高原の農家とともにJAたじまおおや高原有機野菜部会として受託を続けています。同部会全体では約230棟のビニールハウスで年間約70トンの有機野菜を生産。JAたじまを通じてコープこうべに出荷するほか、最も労力を必要とする収穫・出荷の作業軽減を目的にホウレンソウ収穫機の導入試験などに取り組み、生産拡大を目指しています。

代表メッセージ

アグリハイランド金谷 代表取締役 金谷智之さん



私が部会長を務めるJAたじまおおや高原有機野菜部会では、全員が有機JAS認証を取得し、情報を共有しながら同じ品質の野菜づくりを心がけています。おおや高原の有機野菜は、冷涼な気候と昼夜の寒暖差が大きいため、甘みや旨みを蓄えやすいのが特長です。これからも「持続可能な食べものづくりを産地とともに取り組む」と宣言するコープこうべのフードプランに応える野菜を提供していきたいと考えています。

養父市では、2023年に「人と環境

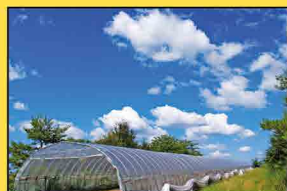
にやさしい農業ビジョン」を策定し、オーガニックビレッジを宣言しました。生産者と自治体やJAなどが一体となって「有機の里づくり」を目指し、有機農業を拡大させる取組が始まっています。積極的に研修生を受け入れ、有機野菜栽培の技術だけでなくマネジメントも教えていきたいと考えています。有機栽培に興味があり熱意のある人、素直でコミュニケーション力のある人を歓迎します。

農福連携の取組



野菜の収穫やほ場の片付け、肥料散布に従事

「農福連携」とは、障害者が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。「アグリハイランド金谷」では、早くから農福連携の意義に共感し、地域の福祉法人と連携。20年以上にわたって福祉事業所の利用者を実習生として受け入れています。



【法人概要】

- 所在地/養父市大屋町筏525-1 ●設立/2000年8月
- 従業員数/パート4人
- TEL/090-2286-3242
- HP/https://ahkanatani.info/ahk211215/

<受け入れについて>

研修生(1~2年)およびインターンシップ研修の受け入れを行っています。詳細は問い合わせを。

経営内容・品目

- 経営面積/すべて有機JAS認証で2.4ha(施設82a)
- 栽培品目/葉菜類(ホウレンソウ、ミズナ、コマツナ、コカブ、クウシンサイなど)、ミニトマト

生産者として思いを伝え
信頼関係を構築
自社で完結する加工品で
多角経営を拡大中



丹波 婦木農場の取組

「今、農村はおもしろい！」をキャッチフレーズに、農業の持つ可能性を広げようと、水稲や年間約100品目に及ぶ野菜をはじめ酪農や養鶏などの多角経営に取り組んでいる「丹波婦木農場」。チーズや麦茶、味噌、醤油などの加工品もほぼすべてを自社生産



紙マルチを使った田植えの様子

しています。循環による「持続可能」な農業にこだわり、水稲では紙マルチにより雑草を抑える技術で無農薬栽培を行うほか、酪農、養鶏を営む中で生まれる堆肥を使った土づくりを行うことで、野菜などにおいても農薬を極力使わない栽培を行っています。

また、販売においては生産者「婦木農場」ならではの思いを伝えることを大切にしています。40年にわたるお客様への配達から、オープンファームの実施、宿泊もできる「農家体感施設〇(まる)」の開設など、さまざまな取組を進めています。手作り料理や農業の現場を体験してもらうことで県内外の根強いファンを獲得しています。

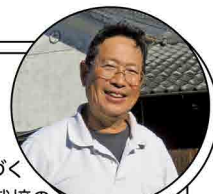
2022年には大阪市内に直営店をオープン。農作物や加工品、こだわりの総菜などの販売を通じて都市部での新たな交流も生まれました。自社チーズ工場の製品が全国コンテストで最優秀賞を獲得したことで注目を集め、これまでとは違う客層獲得にもつながるなど、同社では、多角経営によって広がる人のつながりを大切に、持続可能な農業経営の実現にまい進しています。



直営店に並ぶオリジナル総菜

代表メッセージ

丹波婦木農場 代表 婦木克則さん



農業は作物の出荷にとどまらず、消費者の手に届くまで責任を持つことが大事だと考えています。そのために、農業の姿を直接体感してもらおうと始めたのが「農家体感施設〇(まる)」です。「婦木農場」には、農家の営みから生まれる米や野菜、牛乳、卵など、さまざまな食材を自家製でまかなえる強みがあります。「オープンファームデー」では、生産現場であるほ場の季節ごとの様子や牛や鶏の飼育場を見学し、食育にも役立ててもらっています。自然の恵みを生かした循環型農業

を通じてほ場の土づくりにこだわり、有機栽培の面積を拡充していくことも検討しています。直営店ができたことで、チーズや総菜など加工品の種類も充実させていく予定です。こうした取組はすべて、私たちとお客様の信頼関係を築くことにつながるのだと確信しています。

これからの「食と農」のあり方に関心を持ち、人のために何ができるかを考える人、対人関係において相手を大切にできる人を受け入れていきたいと思っています。

働く先輩のインタビュー



岡井里佳子さん(2021年入社)

子どもの頃に畑の手伝いをしていて、作物ができた時の感動が私の原体験です。社会人になって、別の農園で学びながら婦木農場で研修を受け、幅広い事業展開に可能性を感じ入社しました。主に野菜の栽培を担当していますが、養鶏や施設運営なども手伝っています。オープンファームデーには遠方からのお客様も多く、ランチバイキングでは苦勞して育てた野菜を美味しいとほめていただき、モチベーションアップにつながっています。

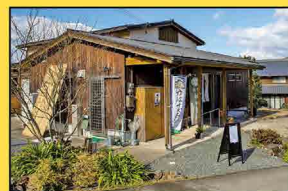
【法人概要】

- 所在地/丹波市春日町野村83 ●設立/2019年2月
- 従業員数/正社員3人 パート4人
- TEL/0795-74-0820
- HP/<https://fukifarm.com/>
<受け入れについて>
面接後のテスト農泊を経て研修生の受け入れを行っています。詳細はHP(右記QR)を参照。



経営内容・品目

- 経営面積/10ha、うち有機2.4ha(水稲)
- 栽培品目/
水稲7ha(コシヒカリ)、野菜(約100種類)1.5ha、小麦35a、豆類(黒豆、黒枝豆、大納言小豆)80a
- 畜産/酪農、採卵養鶏
- 加工品/チーズ、餅、麦茶、醤油、味噌、総菜など



加工品の強みもしっかり活用 農業と直売所を拠点に 新規就農者を応援



山茂の取組

丹波市の特産物である「丹波栗」を看板に打ち出し、農産物の栽培や畜産、直売所の運営を手がける「山茂」。同社は、林業を柱に複合経営を行う「山本木材」の農業と畜産部門を2020年に分社化、設立されました。

代表を務める山本浩子さんは、「丹波栗の魅力をもっと広めたい」と一念発起し、兵庫県丹波農業改良普及センターが認定する「丹波栗剪定(せんてい)士」の資格を取得。傷んでいた自社栗園を復活させたほか、栗栽培をしている地域の女性農業者とともに「丹波栗っこ会」を結成。栗生産者の後継者育成にも取り組んでいます。2020年9月、厨房や加工場をもつ「ひろちゃん栗園 農カフェ」がオープン。収穫した生栗は甘みが増す低温熟成を施し、むき栗や甘露煮などの加工品も自社で製造、販売しています。カフェでは、栗のスイーツや自社栽培の野菜を使ったメニューが評判を呼び、加工部門は規格外品の有効利用にとどまらない強みになっています。

会社設立時には、丹波市立「農(みのり)の学校」の卒業生2人を雇用。学んできた技術を生かせるよう、葉菜類や根菜類、豆類などの有機栽培を開始しました。同校からは、2025年度も1人を採用する予定です。

農業で独立したい人を受け入れる中、「地域に溶け込んで農業経験を積むことが大切」と考え、数年の短期雇用も行うなど、若手就農者を積極的に応援しています。



丹波栗のパウンドケーキ



直売所「ひろちゃん栗園 農カフェ」

代表メッセージ

山茂 代表 山本浩子さん

丹波栗を1年中食べられる店を作りたいという思いで、「ひろちゃん栗園 農カフェ」をオープンしました。収穫期でなくても丹波栗を味わってもらうため、栗を使ったオリジナルスイーツなどの加工品にも力を入れています。野菜の有機栽培では、特に露地栽培に難しさを感じていますが、米や栗、畜産の収入があるおかげで、試行錯誤を繰り返しながらさまざまな品目に取り組みしています。加工ができる強みを生かし、有機栽培のダイコン

やサツマイモは「切干し大根」や「干し芋」に加工し、人気商品になりました。

農業で暮らしていくには、栽培技術やどんな経営を組み合わせるかだけではなく、経験や人脈、土地、資金面など多くの課題があります。当社で働きながら、作物の栽培はもちろん、加工品の製造や販売、畜産との連携など、農業経営に関わる幅広い経験を積んで、夢をかなえるための足元を固めてほしいと思っています。



働く先輩のインタビュー



前 碓根 楓(まえさこそよぎ)さん
(2024年入社)

高校在学中に参加した仕事説明会で規格外の野菜も大切に加工している姿勢に好感を持ちました。牛が好きで、学んできた畜産の知識も生かせるので楽しく取り組んでいます。牛舎に稲わらを敷いたり、牛ふん堆肥を畑に使うなど、畜産と農業が連携していることを実感しています。先輩の指導を受けながら、まだ経験が少ない野菜栽培にもっと挑戦していきたいと思っています。



【法人概要】

- 所在地 / 丹波市氷上町油利104-2 ● 設立 / 2020年9月
 - 従業員数 / 正社員3人 パート10人
 - TEL / 0795-86-8133 (ひろちゃん栗園 農カフェ)
 - HP / <https://hirochankuriendeyaoya.jp/>
 - Instagram / <https://www.instagram.com/yamashigefarm/>
- <受け入れについて>
主に独立就農を目指す人の雇用を行っています。詳細は問い合わせを。

経営内容・品目

- 経営面積 / 18ha、うち有機50a (野菜類、豆類)
- 栽培品目 / 水稻(コシヒカリ)11ha、飼料用稲5ha、栗1ha、葉菜類・根菜類・豆類1ha
- 畜産 / 牛の繁殖飼育、子牛の生産

農業と畜産の連携で 自社完結型の 循環型農業を実現



ひょうたん農場の取組

3代にわたって営まれてきた「兵庫丹波農場」の資産を継承し、農業と畜産の連携による資源循環型の農業に兄弟で取り組む「ひょうたん農場」。40haの規模で栽培する水稲は、コシヒカリを中心に酒米やもち米など、農薬や化学肥料にできるだけ頼らず、土の力を生かした栽培を行っています。また、経営のもうひとつの柱である畜産は、ほ場近くの山あいにある飼育牧場で50頭の但馬牛の母牛を飼育、産まれた子牛を出荷しています。畜産で排出される牛ふんは、水稲の収穫後に得られるもみ殻やワラなどの植物性副資材を加えて発酵と熟成を行い、独自の堆肥を生産。それを使うことで、自社で完結する資源循環型農業を実現しています。



牧場長を務める弟の須原秀次さん

「但馬強力(ごうりき)」や「Hyogo Sake 85」といった酒米は全量を地元酒蔵に契約出荷。地域の特産品である黒大豆や大納言小豆、丹波栗なども手がけ、コシヒカリとともに多くを自社通販サイトで販売しています。有機栽培にもいち早く取り組み、水田や畑の一部において有機JAS認証を2003年に取得しました。有機栽培には天候や害虫の影響で年によって収量が変化する面もあり、面積を拡大するのは簡単ではありませんが、循環型農業の一翼を担う大事な要素として継続して取り組んでいます。



地域の特産品を商品化

代表メッセージ

ひょうたん農場 代表取締役 須原隆一さん



「ひょうたん農場」では、水稲栽培と但馬牛の繁殖飼育という経営の二本柱で、持続可能な循環型農業の取組を続けています。自慢の堆肥は栄養たっぷりの土づくりに役立てているほか、豊かな田園が広がるこの地に耕作放棄地を増やさないために進めている、地域農家の作業受託にも活用しています。「いかに農薬や化学肥料を使わずに土も植物も健康にしていけるか」は大きな課題です。今後は

飼育頭数を増やしながらか、より深い土壌分析や新たな資材活用を検討し、当社の循環型農業の発展につなげていく予定です。育てた農産物や但馬牛を通じて私たちは「食べることの楽しさ」、「命をいただくことの大切さ」を伝えていきます。2019年に株式会社化し、職場環境を整えました。職業人として農業や畜産に取り組みたい人を受け入れていきたいと考えています。

働く先輩のインタビュー



農業系の大学で土壌学を学んできた女性は、土づくりにこだわるひょうたん農場に興味を持ち、丹波市に移住し、パートとして勤務。「ここで学んだ循環型農業を、別の場所で自分の力で取り組んでみたい」と話します。

男性は、丹波市立「農(みのり)の学校」の農場視察研修で「ひょうたん農場」を訪問したことがきっかけで2024年に入社。「まずは一人前の農業人になることを目指しています。学生時代からスポーツに取り組んできたので体力には自信があります」と、率先して作業をこなしています。



【法人概要】

- 所在地 / 丹波市市島町中竹田1678-2
 - 設立 / 2019年4月 ●従業員数 / 正社員2人 パート6人
 - TEL / 0795-78-9487
 - HP / <https://hyotanfarm.co.jp/>
- <受け入れについて>
新規就農者は、研修(1年~3年)を前提に受け入れています。詳細は問い合わせを。

経営内容・品目

- 経営面積 / 41ha、うち有機1.6ha(水稲1ha、黒大豆60a、すべて有機JAS認証)
- 栽培品目 / 水稲40ha(コシヒカリ、但馬強力、Hyogo Sake 85、マンゲツモチ)、黒大豆60a、大納言小豆、栗など
- 畜産 / 牛の繁殖飼育、子牛の生産

ひょうご就農支援センターはここまでやる!!



農業をやりたい そんなあなたを応援します!



就農希望者

兵庫県で
農業がしたい
けれど...

- ・どこでやるのがいいかな?
- ・地域の人に受入れてもらえるかな?
- ・どんな作物をつくったらいいだろう?
- ・農地や機械はどうしよう?
- ・子育てなど生活環境はどうなってるの?

ここで差が付く! ・HP等で就農事例や経営試算等の情報収集
相談前の準備を紹介 ・自宅近隣の家庭菜園や貸農園での農業体験

就農支援センター相談の流れ

- 相談カード入力**
HPから入力できます。
相談開始(オンラインも可)
- 就農相談会・就農バスツアーに参加**
- 短期体験(インターンシップ研修)**
農業法人等で7日間の体験。数力所で実施することも可能。
- 自分に合った農業スタイルを選ぶ**
【本格的な独立就農】or【農業法人等で雇用就農】
- スタイルに応じた研修(1~2年)**
- 就農**



応援チームが
精選!



地域ぐるみで皆さんを支えます!

地域就農・定着応援プラン

プランにはこんな情報が

- こんな地域の魅力があります
- こんな人にきてほしい
- 就農サポートメニュー
技術・経営ノウハウ習得・農地あっせん 等
- 生活サポートメニュー
地域へのとけこみ支援・空家情報・子育て支援 等



●●● 新規就農者受入れ希望地域 ●●●



兵庫県HP就農・
定着応援プラン
一覧

マイナビ農業
【兵庫県】
「ひょうごde就農」



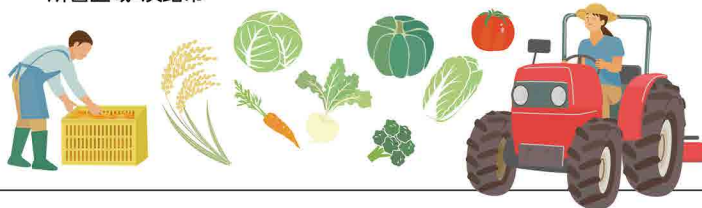
地域単位の応援チーム

市町単位の応援チーム

ご希望地域が決まっている場合は、該当の地域就農支援センターにお問い合わせください

- **神戸地域就農支援センター** (神戸農業改良普及センター内)
神戸市西区神出町小束野30-19 TEL.078-965-2102
所管区域:神戸市
- **阪神地域就農支援センター** (阪神農業改良普及センター内)
三田市天神1-10-14 TEL.079-562-8861
所管区域:尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
- **加古川地域就農支援センター** (加古川農業改良普及センター内)
加古川市加古川町寺家町天神木97-1 TEL.079-421-9165
所管区域:明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
- **北播磨地域就農支援センター** (加西農業改良普及センター内)
加西市別府町西大谷甲2662 TEL.0790-47-1448
所管区域:西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町
- **姫路地域就農支援センター** (姫路農業改良普及センター内)
姫路市北条1-98 TEL.079-281-9335
所管区域:姫路市、市川町、福崎町、神河町
- **光都地域就農支援センター** (光都農業改良普及センター内)
赤穂郡上郡町光都2-25 TEL.0791-58-2211
所管区域:相生市、赤穂市、上郡町、佐用町
- **揖保地域就農支援センター** (龍野農業改良普及センター内)
たつの市龍野町富永1311-3 TEL.0791-63-5173
所管区域:たつの市、宍粟市、太子町

- **豊岡地域就農支援センター** (豊岡農業改良普及センター内)
豊岡市幸町7-11 TEL.0796-26-3707
所管区域:豊岡市
- **美方地域就農支援センター** (新温泉農業改良普及センター内)
美方郡新温泉町芦屋522-4 TEL.0796-82-1161
所管区域:香美町、新温泉町
- **南但地域就農支援センター** (朝来農業改良普及センター内)
朝来市和田山町東谷213-96 TEL.079-672-6888
所管区域:朝来市、養父市
- **丹波地域就農支援センター** (丹波農業改良普及センター内)
丹波市柏原町柏原688 TEL.0795-73-3805
所管区域:丹波篠山市、丹波市
- **南淡路地域就農支援センター** (南淡路農業改良普及センター内)
南あわじ市八木養宜中560-1 TEL.0799-42-0649
所管区域:洲本市、南あわじ市
- **北淡路地域就農支援センター** (北淡路農業改良普及センター内)
淡路市志筑1421-1 TEL.0799-62-0671
所管区域:淡路市



有機農業に関すること全般については

兵庫県農林水産部 農業改良課
 TEL.078-362-9210(直通)
 Email/nogyokairyo@pref.hyogo.lg.jp

就農に関することについては

ひょうご就農支援センター
 TEL.078-391-1222
 就農支援センターHPからもお問い合わせできます

